

九州地方整備局は、河川の維持管理で河川維持管理技術者資格の活用を試行する。河川技術者教育振興機構が認定する「河川維持管理技術者」または「河川点検士」の配置を業務発注の際の入札参加要件に設定。資格取得の難易度が高い河川維持管理技術者を管理技術者として配置する場合には総合評価方式の技術評価で加点する。16年度に試行を開始し、徐々に件数を増やしていく。

河川の維持管理では気候変

河川維持管理技術者資格活用へ

動による災害の激甚化や河川管理施設の老朽化などが進む一方、技術者の減少や技術力の低下が懸念されており、現場体制の確保が課題。これを受け、維持管理水準の確保や

九州整備局 16年度から

向上を図るため技術者資格の活用を試行する。

河川維持管理技術者は点検結果などの診断・評価、河川点検士は状態把握や補修などで主に活用する。16年度は業

務のうちすべての河川巡視支

援業務と河川堤防等点検業務で試行。これ以外の河川堤防等点検結果評価業務、河川維持修繕設計業務、河川定期縦横断等測量業務でも管内で数件試行し、徐々に件数を増やす。堤防等地質調査業務でも18年度以降に試行を想定している。

工事は河川維持工事や堤防等除草工事で16年度、河川応急対策や構造物補修工事で17年度に試行開始を予定している。

整備局

民間資格を活用 河川維持管理の向上

九州地方整備局は、河川の「持管理技術者」と『河川点検維持管理水準の確保・向上を土』を2016年度から活用目的に、民間資格の『河川維

理の専門技術を認定する唯一の資格として河川技術者教育振興機構が15年に創設した。河川維持管理技術者は業務や工事の管理技術者と同レベルの資格となり、河川の状態把握と分析、対応の検討を総合的・的確に実施できる技術者を認定。15年は全国で206人、九州では34人が合格した。河川点検士は担当技術者と同レベルで、堤防や河道、護岸といった河川管理施設を点検要領などに基づき点検できる技術。全国で2758人、九州では517人が合格した。

工事の入札参加資格に盛り込むほか、河川維持管理技術者は総合評価落札方式の加点对象とする。16年度は、発注者支援業務となる河川巡視業務は該当する全8業務を対象とし、すでに委託手続きに入っている。

河川堤防点検結果評価業務は管内で2〜4件程度、河川維持修繕設計と河川定期縦横断面測量業務では数件程度、河川維持工事・堤防除草工事で1〜2件程度を試行する。17年度以降は試行結果を見ながら拡大していく方針だ。

堤防点検や河川巡視、河道の樹木量調査などの状態把握では河川点検士、これらの診断・評価では河川維持管理技術者を活用する。発注業務・